

## 第147回くらしの植物苑観察会 2011年6月25日(土)

## くらしの中の植物

天野 誠(千葉県立中央博物館 植物学研究科)

皆さんは、ふだんの生活をどれだけ植物に依存しているでしょうか、考えてみたことはありますか?いつもの食事で考えてみると、コメやコムギなどの穀物、キャベツやダイコンなどの野菜、ミカンやリンゴなどの果物、砂糖や醤油などの調味料、これらいずれもが植物の恵みです。衣類を作る天然繊維を考えてみましょう。木綿や様々な麻(大麻、亜麻、苧麻)など、絹を除けば、皆植物から取ります。今では草木染めは特殊な染料ですが、江戸時代までさかのぼれば、それが主たる染料です。住まいではどうでしょうか?柱や床には木材が今でも使われています。鉄やプラスチックなどに囲まれているようですが、このように衣食住すべてにわたって、今でも人の生活は植物に依存しています。それだけではありません。多くの人は、花に日々いやされているのではないのでしょうか?観賞用植物の存在も忘れてはいけません。

少し昔の時代はどうだったのでしょうか?もっと人の生活は植物に依存していました。これらの有用植物を集めたのが、この歴史民俗博物館のくらしの植物苑です。先ほど紹介しなかった例を示しましょう。今では、ガソリンエンジンで動く車に取って変わりましたが、牛や馬は田畑を耕したり、物を陸上輸送したりする上で、大事な手段でした。このため、どの集落でも茅場がありました。茅は屋根を葺くための大事な建築材料でもあったのです。現在の道具は鉄やシリコン、プラスチックの固まりですが、昔の道具、たとえば大工道具などは木でできている部分が少なくありません。薬もほとんど、漢方薬に代表されるように、植物の原料でできています。紙も墨も、書く道具の主たる材料は植物です。それどころか、主たる燃料である炭やまき、これも植物由来です。

今回は、現在でもなじみのある植物に加えて、かつては人の役に立っていた植物をその利用方法も含めて解説します。

.....

**次回予告** 第148回くらしの植物苑観察会 2011年7月23日(土)

「白山麓出作り小屋の植物」 松田睦彦(当館研究部民俗研究系)

13:30~15:30(予定) 苑内休憩所集合 申込不要